

●「動物愛護について ～わたしたちに出来ること～」（マネジメント大賞受賞）

知事： 高知県は人口当たりの殺処分数が一番多いところで、本当に不名誉なことだと思います。私も犬を1匹飼っていますが、今しつけ中です。子供ができたときに困ることもあるでしょう。（アンケートで、今までに捨て犬、捨て猫を見たことがあるが飼ったことはないと答えた）約5割の方は見て見ぬふりというか、飼うことまではできなかったということでしょうね。厳しい話ですが、きめ細かく調べておられてすばらしいと思いました。

提案の1で鑑札をつけ、逃げ出したときに見つけやすくしていく、買い手に誓約書を配付するのはすごく実効性がある話ですね。「1から10の約束」を読んだら、犬にも猫にも精神、気持ちがあると思えるでしょう。特に犬は目に表情があります。やはり自覚してもらうことが、まず第一歩だろうと思いました。提案の2、ドッグセラピー

ですが、私が昔東京で仕事をしていたときにこの話に関わったことがあります。これは、例えばラブラドルレトリバーなどでないとなかなかできなかつたりするようですが、いろいろな形で子供の頃から動物と触れあえるような、動物の新しい活躍の場も重要でしょうね。「かわいそうだと思うだけではダメ!!!行動を起こしてください。どうやって・・・?できるだけ今の現状を多くの人に伝えることだ」とありますが、私も本当にそうだと思います。皆さんもこのことを多くの方に伝えていってください。私も気をつけていきたいと思っています。

実際なぜ動物を手放すのかは、より深い理由があるかもしれません。いろいろな理由が背後にあると思います。高知県がワーストワンになるのは、特に多くの理由が重なっていて、経済的に厳しいということも大きな原因なのかもしれません。飼った限りは責任を持つ。繁殖のこともしっかり管理をして、のちに殺さざるを得なくなるようなことはしないことが大切でしょう。私は、誓約書の配布をできるだけみんなに訴えていくという提案は、本当に有益だと思います。

教育長：これは優しい動物愛護のテーマですが、非常に厳しいテーマですね。確か10年くらい前までこの譲渡会もなかったはずですが。今から10年くらい前にある職員が譲渡会の提案をしました。私は県庁の財政課で予算を配分する仕事をしていましたので、「これは本当にひどい、少しでも命を救うために譲渡会をやったらいい」と予算をつけた記憶があります。私としては、それで少しは良くなったと思っていましたが、大きな課題を突きつけられて、非常に重たい気持ちになっています。

